



環境に配慮した工場とオフィス

製品の生産プロセス全体を通じて、節電や設備の改善による地球温暖化防止対策、廃棄物削減活動などに取り組んでいます

事業活動と環境負荷 (富山事業所)

富山事業所は、製品・サービスを提供するために、資源やエネルギーなどを投入し、結果としてCO₂や廃棄物などを排出しています。これらの投入量や排出量を把握し、有害化学物質の削減やエネルギー使用効率の向上に努めています。

なお、半導体のバリューチェーンを通じた当社グループの環境負荷軽減の取り組みは、「SDGsが示す当社の事業改革」のページおよび「環境にやさしい次世代製品」のページで紹介しています。

Input ▶ 富山事業所の事業活動 ▶ 製品・サービス ▶ Output ()内は2017年度比を示します。

エネルギー

電気	23,522 MWh (+8%)
	[228,144 GJ]
燃料油 (重油・灯油)	120 kL (-17%)
	[4,621 GJ]
ガス (都市ガス・LPG)	54 千m ³ (+7%)
	[5,761 GJ]

原材料

原材料・部品	109 t (-39%)
梱包材	387 t (-17%)
紙	18 t (-9%)

化学物質

PRTR ^{※1} 化学物質取扱量	1.9 t (-31%)
----------------------------	---------------------

水

上水、工業用水	154 千m ³ (-1%)
〔上水〕	10 千m ³
〔工業用水〕	144 千m ³

排ガス

CO ₂ 排出量 ^{※2}	10,749 t (+7%)
〔直接CO ₂ 排出量〕	658 t
〔間接CO ₂ 排出量〕	10,091 t
SOx	0.0 Nm ³ (0%)
NOx	92 Nm ³ (-62%)

廃棄物・有価物

排出量	491 t (-4%)
最終処分量	2 t (+52%)

化学物質

PRTR化学物質 排出・移動・リサイクル	0.6 t (+105%)
----------------------	----------------------

排水

排水量	154 千m ³ (-1%)
〔浄化後河川〕	154 千m ³
BOD	0.5 t (+24%)

※1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)

※2 CO₂排出量 … 算出に使用したCO₂電力換算係数は、2005年のIEAの国別換算係数を使用

廃棄物の削減

富山事業所は、発生量を抑制する取り組みとして、廃棄物・有価物発生量原単位指数の改善を図ります。2018年度は前年同様の原単位指数45(2005年度比で55%改善)でした。

2018年度はより多くの廃棄物が再資源化されるよう、埋め立て処分量を無くす(ゼロエミッション)活動に取り組ましました。資源の有効利用のために、リサイクルを意識し、適切な分別を行います。社内教育にて分別促進を啓発し、各自の廃棄物分別の意識を高めました。

また、処分先の現地確認では、産業廃棄物以外に一般廃棄物、売却した利材品においても収集運搬から処分に至るまで適正に行われているかを確認しています。特に法令遵守、安全、環境への配慮等も重要項目としています。

廃棄物・有価物発生量と原単位の改善推移 (富山事業所)



地球温暖化防止・省エネルギー

富山事業所は、プロセス開発に伴う評価設備のエネルギー使用量が大半を占めます。無駄なアイドリングを削減し環境負荷の少ないプロセス開発に努めています。2018年度はエネルギー使用量原単位指数を82（2005年度比で18%改善）とする目標を掲げて取り組みました。しかしながら製品開発、プロセス評価の増加によりエネルギー使用量原単位指数は95（2005年度比で5%改善）と未達の結果となりました。

一方で設備面の取り組みとしては、高効率空調機器への更新、LED照明への更新等、積極的に入れ替えを図りエネルギーの削減に努めています。また、運用面の取り組みとしては、2005年から政府が推進する地球温暖化防止国民運動に賛同し、「クールビズ」「ウォームビズ」の実施、「ライトダウンキャンペーン」への参加を継続しています。

エネルギー使用量と原単位の改善推移（富山事業所）



エネルギー管理優良事業者

富山事業所は、エネルギー管理優良事業者等表彰の最高位である中部経済産業局長表彰を受賞しました。

この賞は毎年2月の「省エネルギー月間」に合わせて、省エネルギーの普及を図るために、省エネルギーへの貢献が顕著な事業者と個人を表彰するものです。

今年度北陸地区では、当社のみを受賞となりました。

受賞に至る評価ポイントは、SCR評価機*の省エネ、各建屋照明のLED化、外気を利用した空調の熱交換（フリークーリングシステム）、高効率機器への設備入れ替えによる成果が主なものでした。

*SCR評価機… スーパークリーンルーム内で当社製品によるプロセス状況を評価する装置



（右）富山事業所 所長 柳川 秀宏
（左）同 設備課 課長 中村 弓夫

廃棄物の適正処分の追求

富山事業所から排出される多くの廃棄物は再資源化されています。プロセス評価で使用された多くのウェーハは廃棄されませんが有価物として売却し再利用されています。

廃ウェーハは処分業者で分別され、シリコン製の太陽電池の原料として使用できる物は太陽電池製造会社で利用されます。太陽電池として利用できない廃ウェーハも、アルミインゴット製造用の添加剤や鉄鋼製品用の脱酸素材とし、各製造会社で利用されています。

廃棄物の排出者として、適正な処分方法であるかを精査し、資源の有効活用に努めます。

廃棄物適正処分の流れ

